

平成29年度労災疾病臨床研究事業費補助金研究

中高年齢労働者の体力増進のための予防的リハビリテーションの 産業保健への応用に関する研究

研究代表者 佐伯 寛（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座教授）

研究分担者 松嶋康之（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座准教授）

研究結果の概要：

中高年労働者の就労能力の低下、疾病の多発、労働災害の増加がみられる。対策として、労働者の身体能力の向上が必要である。中高年齢労働者の体力増進を図るため、リハビリ医学で用いられている運動療法などの技術の中から産業保健に応用できる技術を抽出整理し、それらを活用する個別管理システムの運用を図ることで、産業保健における「予防的リハビリ」の構築を検討することを本研究の目的としている。

本研究の特色は、リハビリ医学（第三次予防）の技法を産業保健（第一次予防）へ応用することにより、中高年齢労働者の増進を図る「予防的リハビリ」を進めるため、リハビリ治療技術を産業保健へ広げること、多様化が進む労働態様に対して集団管理とは別に個別対応での運動指導管理を行うシステムの構築を図ることにある。リハビリ技術・技法の転用により産業保健の現場でより効果の高い運動プログラムを実施することが可能となり、効率的に中高年齢労働者の体力増進を図ることを目指している。

3年間の研究期間の3年目として平成29年度は、以下の研究を行った。

1. 産業保健で実施されている運動指導等に関する実態調査
2. 障害個別対応管理システムの運用に関する実態調査
3. 産業保健で活用できるリハビリ治療技術のマニュアル作成
4. 産業保健で活用できる個別対応管理システムの運用モデルの作成および試験的運用

事業所における調査では、国内の従業員数が1000人以上の事業所において、運動教育の実施率は33.9%、運動指導の実施率は13.8%、運動実践の実施率は6.3%であり、集団を対象とした介入と比較して、個人を対象とした介入の実施率が低いことが明らかになった。また、いずれの介入も効果判定の実施事業所は半数未満であり、かつ、それらの介入が効果的に行われていると回答した企業は半数程であった。運動を主とする介入の実施率の向上、効果判定の実施率の向上、効果的な介入方法の検討が今後の課題として挙げられた。

個別管理システムの構築に関して、中高齢のポリオ罹患患者における定期的なポリオ検診におけるチェックは、より小さな変化を早期より発見することで、ポリオ罹患患者の症状の進行や機能低下を防止する可能性がある。また、現在ポリオ罹患患者自らが全国各地に患者会を結成し、活発的な活動を展開していることが知られており、現在実施しているようなポリオ検診はそれらの患者の助けとなることが予想される。このようなシステムティックな個別検診が中高年齢労働者の定期健康診断時に追加できれば極めて有用である。

治療技術マニュアルについては、試作版を経て最終版を完成した。本マニュアルは、リハビリ医学の固有治療技術を産業保健で活用できるよう、エビデンスのある実用性の高い項目を中心に取りまとめ、ホームページ（HP）や書籍で公開できるように構成した。

モデル事業場において試験運用で使用する「個別対応管理システムの運用モデル」を立案した。本モデルを用いた電子部品工場での試験的運用の検証の結果、労働者の運動管理指導において、個別対応管理が集団管理指導よりも効果が高いことが明らかとなった。この個別対応管理システムを活用することで、労働者の健康増進につながり、傷病発生を減少ならびに就労能力の向上を通じて社会全体にとって有益となると考えられた。

以上、本研究で作成された個別対応管理システムを産業保健の現場で用いることで、より効果の高い運動プログラムを実施することが可能となり、効率的に中高年齢労働者の体力増進を図ることが期待される。換言すれば、このシステムを用いることにより、リハビリ技術・技法を産業保健の現場に転用することが可能となる。